



2021年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2021年2月3日

上場会社名 株式会社三菱ケミカルホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 4188 URL <https://www.mitsubishichem-hd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 越智 仁
 問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR室長 (氏名) 清水 治 (TEL) (03)6748-7120
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		コア営業利益		営業利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期 第3四半期	2,355,441	△13.7	113,612	△37.2	728	△99.5	△28,403	—	△47,830	—	28,908	△68.9
2020年3月期 第3四半期	2,730,767	△4.9	181,037	△31.6	160,568	△40.1	108,280	△47.5	76,272	△54.0	93,063	△51.2

(参考) 税引前四半期利益 2021年3月期第3四半期 △12,769百万円 (—%) 2020年3月期第3四半期 144,724百万円 (△45.0%)

(注) コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出しております。

	基本的1株当り 四半期利益	希薄化後1株当り 四半期利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△33.68	△33.68
2020年3月期第3四半期	53.71	49.54

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	5,121,680	1,441,539	1,132,898	22.1
2020年3月期	5,132,149	1,450,829	1,170,222	22.8

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	20.00	—	12.00	32.00
2021年3月期	—	12.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	12.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		コア営業利益		営業利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当り 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,193,000	△10.8	153,000	△21.5	23,000	△84.1	△22,000	—	△48,000	—	△33.80

(参考) 税引前利益 通期 4,000百万円 (△96.7%)

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 一社、除外 一社(社名) エムエイチシーエス㈱

特定子会社であったエムエイチシーエス㈱は、2020年7月1日付で当社の子会社であるクオリカプス㈱に吸収合併されたことにより、消滅しております。

- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無

- (3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	1,506,288,107株	2020年3月期	1,506,288,107株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	85,893,934株	2020年3月期	86,230,066株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	1,420,204,305株	2020年3月期3Q	1,419,962,438株

当社は、役員報酬BIP信託を用いた業績連動型株式報酬制度を導入しており、当該信託が保有する当社株式(2020年3月期末 3,183,648株、2021年3月期3Q末 2,994,552株)は、自己株式に含めて記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	
(1) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	P. 5
(2) 要約四半期連結財政状態計算書	P. 7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	P. 9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 11
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 13
(継続企業の前提に関する注記)	P. 13
(セグメント情報)	P. 13

(説明資料) 2021年3月期 第3四半期決算説明

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(全般の概況)

当社グループの当第3四半期連結累計期間(2020年4月1日～2020年12月31日：以下同じ)における事業環境は、上期を中心に新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行の影響を受け、自動車用途等の需要が低調に推移しました。当第3四半期以降は回復しつつあるものの、引き続き感染拡大による影響を注視する必要があります。

このような状況下、売上収益は、前年同期(2019年4月1日～2019年12月31日：以下同じ)に比べ3,754億円減(△13.7%)の2兆3,554億円となりました。利益面では、コア営業利益は同674億円減(△37.2%)の1,136億円、営業利益は非経常項目においてヘルスケア分野に関連する減損損失等を計上したことにより同1,599億円減の7億円、税引前四半期利益(△損失)は同1,575億円減の△128億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益(△損失)は、同1,241億円減の△478億円となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間(2020年10月1日～2020年12月31日)においては、コア営業利益は前年同期(2019年10月1日～2019年12月31日)に比べ88億円増(+17.3%)の590億円となり、自動車用途を中心に需要が回復し、ヘルスケアを除く全てのセグメントにおいて増加しました。

(分野別の概況)

当第3四半期連結累計期間の分野別の業績の概要は次のとおりであります。

なお、セグメント損益は、営業利益(又は損失)から非経常的な要因により発生した損益(事業撤退や縮小から生じる損失等)を除いて算出したコア営業利益で表示しております。

【機能商品分野】

機能商品セグメント

売上収益は前年同期に比べ1,024億円減少し7,454億円となり、コア営業利益は同136億円減少し399億円となりました。

機能部材サブセグメントにおいては、当第3四半期以降、需要は回復しつつあるものの、前年同期比では高機能成形材料の高機能エンジニアリングプラスチック等の自動車向けの販売数量が減少したことにより、売上収益は減少しました。

機能化学サブセグメントにおいては、高機能ポリマーの機能性樹脂等の自動車向けの販売数量が減少したことに加え、フェノール・ポリカーボネートチェーンにおいて定期修理等の影響により販売数量が減少したことにより、売上収益は減少しました。

当セグメントのコア営業利益は、高機能ポリマーのフェノール・ポリカーボネートチェーンにおける定期修理の影響に加え、高機能成形材料の高機能エンジニアリングプラスチックや高機能ポリマーの機能性樹脂をはじめとして、総じて自動車向けの販売数量が減少したこと等により、減少しました。

当第3四半期連結累計期間に当セグメントにて実施または発生した主な事項は、以下のとおりです。

- 三菱ケミカル㈱は、コンタクトレンズ原料や抗菌剤などのケイ素化合物、半導体ブリアーサー等に用いられる金属化合物等の領域において、高度な分子設計・合成技術を保有するGelest社(本社：米国・ペンシルバニア州)を買収することを2020年4月に決定し、同年10月に連結子会社としました。同社の広範な知見と、三菱ケミカル㈱の技術、経営資源、顧客ネットワーク等を組み合わせることで、提供可能なソリューションの大幅な拡充を目指します。
- 三菱ケミカル㈱と宇部興産株式会社(本社：東京都港区)は、2020年3月に発表した電解液事業の統合について、両社の同事業に関する資産を合弁新社(社名：MUアイオニックソリューションズ株式会社 本社：東京都千代田区)に承継・統合する旨の共同新設分割計画書に同年7月に合意し、同合弁新社を10月に設立しました。

【素材分野】

① ケミカルズセグメント

売上収益は前年同期に比べ2,084億円減少し6,074億円となり、コア営業利益は同443億円減少し59億円の損失となりました。

MMAサブセグメントにおいては、当第3四半期以降、MMAモノマー等の市況が上昇しているものの、前年同期比では低水準で推移したことにより、売上収益は減少しました。

石化サブセグメントにおいては、エチレンセンターの定期修理の影響が拡大したことにより販売数量が減少したことに加え、原料価格の下落等に伴い販売価格が低下したことにより、売上収益は減少しました。

炭素サブセグメントにおいては、原料価格の下落等に伴う販売価格の低下及びコークス等の需要減退に伴う販売数量の減少により、売上収益は減少しました。

当セグメントのコア営業利益は、MMAモノマー等の市況下落、石化製品における定期修理の影響拡大及び原料価格下落に伴う在庫評価損の発生、炭素製品において販売数量が減少したこと等により、減少しました。

当第3四半期連結累計期間に当セグメントにて実施または発生した主な事項は、以下のとおりです。

- ・三菱ケミカル㈱の連結子会社である日本ポリプロ㈱は、収益力の強化に向けた構造改革の一環として、同社の五井工場（所在地：千葉県市原市）におけるポリプロピレン製造設備1系列（生産能力：7万トン／年）を2021年1月に停止しました。
- ・三菱ケミカル㈱の連結子会社である日本ポリエチレン㈱は、同社の鹿島工場（所在地：茨城県神栖市）における高圧法低密度ポリエチレン製造設備1系列（生産能力：6.2万トン／年）を2021年5月（予定）に停止し、同製品の生産を川崎工場（所在地：神奈川県川崎市）に集約するとともに、事業再構築の一環として川崎工場で生産しているエチレン酢酸ビニルコポリマー（EVA）の生産・販売を終了することを2020年9月に決定しました。
- ・三菱ケミカル㈱は、香川事業所（所在地：香川県坂出市）における高炉向けコークス事業について、最適な生産及び販売体制に向けた構造改革として、2021年3月末までにコークス炉323門を250門に縮小するとともに、輸出入荷設備を増強（2022年3月末稼働予定）することを決定しました。
- ・三菱ケミカル㈱は、MMA事業の競争力の強化と供給体制の最適化を図るため、同社の連結子会社であるルーサイト・インターナショナル社のボーモント工場（所在地：米国・テキサス州）におけるMMAモノマー及びMAA生産（生産能力：13.5万トン／年）を終了し、2021年2月末（予定）に閉鎖することを決定しました。
- ・三菱ケミカル㈱は、独自技術である新エチレン法（アルファ法）を用いた、米国におけるMMAモノマーのプラント建設プロジェクト（生産能力：35万トン／年）について、今般プラントの建設を前提にルイジアナ州ガイスマーの土地を取得しました。2022年半ばを目途に投資の最終判断を行い、2025年中の稼働を目標としています。

② 産業ガスセグメント

売上収益は前年同期に比べ408億円減少し5,875億円となり、コア営業利益は同76億円減少し589億円となりました。

産業ガスにおいては、エレクトロニクス関連向けガスが堅調に推移したものの、国内外の需要が総じて減退したことにより、売上収益及びコア営業利益はともに減少しました。

当第3四半期連結累計期間に当セグメントにて実施または発生した主な事項は、以下のとおりです。

- ・大陽日酸㈱は、グローバルガスメジャーとして競争力のあるグループ運営体制を構築するため、2020年10月1日に持株会社体制へ移行し、商号を日本酸素ホールディングス㈱に変更しました。

【ヘルスケア分野】

ヘルスケアセグメント

売上収益は前年同期に比べ81億円減少し2,997億円となり、コア営業利益は同4億円増加し224億円となりました。

医薬品においては、薬価改定等の影響による国内医療用医薬品の減少等により売上収益は減少したものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う活動自粛等による販売費や研究開発費の減少により、コア営業利益は前年同期並みとなりました。なお、Novartis Pharma社に導出した多発性硬化症治療剤「ジレニア®」のロイヤリティ収入については、2019年2月に仲裁手続きに入ったためロイヤリティ収入の一部について、IFRS第15号に従い売上収益の認識を行わないこととしました。当第3四半期連結累計期間におきましても、仲裁手続きが継続しているため、ロイヤリティ収入の一部について、売上収益の認識を行っておりません。

当第3四半期連結累計期間に当セグメントにて実施または発生した主な事項は、以下のとおりです。

- ・ 田辺三菱製薬㈱は、エダラボン（一般名）（米国製品名：「ラジカヴァ®」）の筋萎縮性側索硬化症（ALS）の適応症について、日本・韓国・米国・カナダ・スイス・中国に次ぎ、2020年7月にインドネシアで承認を取得しました。

【その他】

売上収益は前年同期に比べ157億円減少し1,154億円となり、コア営業利益は3億円増加し89億円となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、新型コロナウイルス感染症の影響による不測の事態への備え等により現金及び現金同等物を確保したことや、ユーロ高等の進行に伴う在外連結子会社の資産の円貨換算額の増加等がありましたが、ニューロゲーム社（イスラエル）の無形資産にかかる減損等により、前連結会計年度末に比べ104億円減少し5兆1,217億円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績の動向等を踏まえ、2020年11月4日に公表しました2021年3月期の通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

本日（2021年2月3日）公表の『2021年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ』も併せてご覧ください。

2021年3月期通期連結業績予想の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上収益	コア営業利益	営業利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	億円	億円	億円	億円	億円	円 銭
前回発表予想 (A) (2020年11月4日発表)	31,750	1,400	40	△340	△590	△41 54
今回修正予想 (B)	31,930	1,530	230	△220	△480	△33 80
増減額 (B)－(A)	180	130	190	120	110	
増減率 (%)	0.6%	9.3%	475.0%	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	35,805	1,948	1,443	866	541	38 08

税引前利益 前回発表予想 △160億円 今回修正予想 40億円

・コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益（非経常項目）を除いて算出しております。

通期業績予想につきましては、自動車用途を中心とした需要の回復およびMMA等の市況の上昇が、前回発表予想（2020年11月4日発表）時の想定を上回って推移していること等により、売上収益及びコア営業利益以降の各段階損益は前回発表予想数値を上回る見込みです。

なお、前回発表予想は、コロナ禍の収束時期が見通せない中で、当連結会計年度においても厳しい状況が続くものの第3四半期連結会計期間以降は回復傾向に転じるとの前提に基づき、各事業の需要減少リスク等について織り込んで作成しております。今回修正予想において当該前提に重要な変更はありません。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

要約四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
継続事業		
売上収益	2,730,767	2,355,441
売上原価	△1,968,854	△1,694,438
売上総利益	761,913	661,003
販売費及び一般管理費	△592,896	△550,694
その他の営業収益	17,610	19,564
その他の営業費用	△36,746	△137,165
持分法による投資利益	10,687	8,020
営業利益	160,568	728
金融収益	6,785	4,823
金融費用	△22,629	△18,320
税引前四半期利益(△損失)	144,724	△12,769
法人所得税	△53,336	△15,634
継続事業からの四半期利益(△損失)	91,388	△28,403
非継続事業		
非継続事業からの四半期利益	16,892	—
四半期利益(△損失)	108,280	△28,403
四半期利益(△損失)の帰属		
親会社の所有者	76,272	△47,830
非支配持分	32,008	19,427
四半期利益(△損失)	108,280	△28,403
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(△損失)		
継続事業(円)	41.82	△33.68
非継続事業(円)	11.89	—
基本的1株当たり四半期利益(△損失)(円)	53.71	△33.68
希薄化後1株当たり四半期利益(△損失)		
継続事業(円)	38.60	△33.68
非継続事業(円)	10.94	—
希薄化後1株当たり四半期利益(△損失)(円)	49.54	△33.68

要約四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期利益(△損失)	108,280	△28,403
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産	5,593	6,125
確定給付制度の再測定	6,701	24,544
持分法適用会社における その他の包括利益に対する持分	△143	△74
純損益に振り替えられることのない 項目合計	12,151	30,595
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△22,338	25,893
キャッシュ・フロー・ヘッジの 公正価値の純変動の有効部分	△28	233
持分法適用会社における その他の包括利益に対する持分	△5,002	590
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	△27,368	26,716
税引後その他の包括利益合計	△15,217	57,311
四半期包括利益	93,063	28,908
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	69,247	△6,417
非支配持分	23,816	35,325

(2) 要約四半期連結財政状態計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	228,211	321,066
営業債権	698,516	716,697
棚卸資産	606,505	568,036
その他の金融資産	117,628	42,980
その他の流動資産	90,140	90,620
小計	1,741,000	1,739,399
売却目的で保有する資産	8,281	18,072
流動資産合計	1,749,281	1,757,471
非流動資産		
有形固定資産	1,742,216	1,735,435
のれん	616,769	655,974
無形資産	510,575	448,424
持分法で会計処理されている投資	169,958	171,839
その他の金融資産	226,488	225,019
その他の非流動資産	42,813	60,553
繰延税金資産	74,049	66,965
非流動資産合計	3,382,868	3,364,209
資産合計	5,132,149	5,121,680

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務	398,061	370,435
社債及び借入金	727,307	668,053
未払法人所得税	19,287	22,832
その他の金融負債	359,540	226,786
引当金	7,968	12,032
その他の流動負債	122,575	140,300
小計	1,634,738	1,440,438
売却目的で保有する資産に 直接関連する負債	1,761	2,624
流動負債合計	1,636,499	1,443,062
非流動負債		
社債及び借入金	1,555,947	1,750,118
その他の金融負債	88,533	84,902
退職給付に係る負債	125,611	110,692
引当金	31,893	27,195
その他の非流動負債	80,840	103,368
繰延税金負債	161,997	160,804
非流動負債合計	2,044,821	2,237,079
負債合計	3,681,320	3,680,141
資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	176,715	179,744
自己株式	△63,485	△63,256
利益剰余金	1,071,260	1,016,892
その他の資本の構成要素	△64,268	△50,482
親会社の所有者に帰属する持分合計	1,170,222	1,132,898
非支配持分	280,607	308,641
資本合計	1,450,829	1,441,539
負債及び資本合計	5,132,149	5,121,680

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	資本金	資本 剰余金	自己 株式	利益 剰余金
2019年4月1日残高	50,000	321,477	△63,560	1,073,873
四半期利益(△損失)	—	—	—	76,272
その他の包括利益	—	—	—	—
四半期包括利益	—	—	—	76,272
自己株式の取得	—	—	△20	—
自己株式の処分	—	△77	79	—
配当	—	—	—	△56,804
株式報酬取引	—	289	—	—
連結子会社の株式報酬取引	—	—	—	—
支配継続子会社に対する 持分変動	—	△1,316	—	—
企業結合または事業分離	—	2,192	—	—
連結範囲の変動	—	—	—	351
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	—	—	—	6,357
所有者との取引額等合計	—	1,088	59	△50,096
2019年12月31日残高	50,000	322,565	△63,501	1,100,049

	その他の資本の構成要素				合計	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
	その他の 包括利益を 通じて 公正価値で 測定する 金融資産	確定給付 制度の 再測定	在外営業 活動体の 換算差額	キャッシュ・ フロー・ ヘッジの 公正価値の 純変動の 有効部分				
2019年4月1日残高	51,500	—	△55,530	187	△3,843	1,377,947	647,907	2,025,854
四半期利益(△損失)	—	—	—	—	—	76,272	32,008	108,280
その他の包括利益	7,463	5,398	△19,788	△98	△7,025	△7,025	△8,192	△15,217
四半期包括利益	7,463	5,398	△19,788	△98	△7,025	69,247	23,816	93,063
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△20	—	△20
自己株式の処分	—	—	—	—	—	2	—	2
配当	—	—	—	—	—	△56,804	△29,091	△85,895
株式報酬取引	—	—	—	—	—	289	—	289
連結子会社の株式報酬取引	—	—	—	—	—	—	△14	△14
支配継続子会社に対する 持分変動	—	—	—	—	—	△1,316	△172	△1,488
企業結合または事業分離	—	—	—	—	—	2,192	4,148	6,340
連結範囲の変動	—	—	—	—	—	351	536	887
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	△959	△5,398	—	—	△6,357	—	—	—
所有者との取引額等合計	△959	△5,398	—	—	△6,357	△55,306	△24,593	△79,899
2019年12月31日残高	58,004	—	△75,318	89	△17,225	1,391,888	647,130	2,039,018

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

	資本金	資本 剰余金	自己 株式	利益 剰余金
2020年4月1日残高	50,000	176,715	△63,485	1,071,260
四半期利益(△損失)	—	—	—	△47,830
その他の包括利益	—	—	—	—
四半期包括利益	—	—	—	△47,830
自己株式の取得	—	—	△13	—
自己株式の処分	—	△180	242	—
配当	—	—	—	△34,091
株式報酬取引	—	△7	—	—
支配継続子会社に対する 持分変動	—	760	—	—
企業結合または事業分離	—	2,456	—	—
連結範囲の変動	—	—	—	79
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	—	—	—	27,474
その他の資本の構成要素 から非金融資産等への振替	—	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	3,029	229	△6,538
2020年12月31日残高	50,000	179,744	△63,256	1,016,892

その他の資本の構成要素

	その他の 包括利益を 通じて 公正価値で 測定する 金融資産	確定給付 制度の 再測定	在外営業 活動体の 換算差額	キャッシュ・ フロー・ ヘッジの 公正価値の 純変動の 有効部分	合計	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2020年4月1日残高	38,335	—	△102,773	170	△64,268	1,170,222	280,607	1,450,829
四半期利益(△損失)	—	—	—	—	—	△47,830	19,427	△28,403
その他の包括利益	3,307	24,456	13,486	164	41,413	41,413	15,898	57,311
四半期包括利益	3,307	24,456	13,486	164	41,413	△6,417	35,325	28,908
自己株式の取得	—	—	—	—	—	△13	—	△13
自己株式の処分	—	—	—	—	—	62	—	62
配当	—	—	—	—	—	△34,091	△10,392	△44,483
株式報酬取引	—	—	—	—	—	△7	—	△7
支配継続子会社に対する 持分変動	—	—	—	—	—	760	1,667	2,427
企業結合または事業分離	—	—	—	—	—	2,456	1,488	3,944
連結範囲の変動	—	—	—	—	—	79	△54	25
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	△3,018	△24,456	—	—	△27,474	—	—	—
その他の資本の構成要素 から非金融資産等への振替	—	—	—	△153	△153	△153	—	△153
所有者との取引額等合計	△3,018	△24,456	—	△153	△27,627	△30,907	△7,291	△38,198
2020年12月31日残高	38,624	—	△89,287	181	△50,482	1,132,898	308,641	1,441,539

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益 (△損失)	144,724	△12,769
非継続事業からの税引前四半期利益	25,585	—
減価償却費及び償却費	179,374	181,000
持分法による投資損益(△は益)	△10,692	△8,020
株式交換差益	△23,922	—
受取利息及び受取配当金	△6,520	△4,560
支払利息	19,133	16,381
営業債権の増減額(△は増加)	54,654	△10,171
棚卸資産の増減額(△は増加)	5,938	46,114
営業債務の増減額(△は減少)	△22,820	△32,183
退職給付に係る資産及び負債の増減額	558	2,709
その他	19,541	122,336
小計	385,553	300,837
利息の受取額	2,800	1,123
配当金の受取額	22,975	14,140
利息の支払額	△17,508	△15,779
法人所得税の支払額又は還付額 (△は支払)	△56,083	△28,086
営業活動によるキャッシュ・フロー	337,737	272,235
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△163,357	△176,446
有形固定資産の売却による収入	10,836	14,914
無形資産の取得による支出	△4,386	△7,905
投資の取得による支出	△342,795	△2,198
投資の売却及び償還による収入	348,834	72,386
子会社の取得による支出	△1,429	△28,449
子会社の売却による収入	2,836	1,971
事業譲受による支出	—	△374
定期預金の純増減額(△は増加)	25,054	4,727
その他	9,449	△27,413
投資活動によるキャッシュ・フロー	△114,958	△148,787

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△465,199	△76,705
コマーシャル・ペーパーの純増減額 (△は減少)	△20,000	47,000
長期借入れによる収入	399,636	274,133
長期借入金の返済による支出	△117,842	△143,956
社債の発行による収入	79,549	69,640
社債の償還による支出	△60,000	△45,000
リース負債の返済による支出	△22,800	△22,356
自己株式の純増減額(△は増加)	△18	△12
配当金の支払額	△56,804	△34,091
非支配持分への配当金の支払額	△29,105	△10,446
非支配持分からの子会社持分取得による 支出	△1,714	△98,525
非支配持分からの払込による収入	3	4,404
その他	—	1,139
財務活動によるキャッシュ・フロー	△294,294	△34,775
現金及び現金同等物に係る為替変動による 影響	△7,436	3,413
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△78,951	92,086
現金及び現金同等物の期首残高	321,541	228,211
売却目的で保有する資産への振替に伴う 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,152	1
連結範囲の変更に伴う現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	606	749
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	19
現金及び現金同等物の四半期末残高	245,348	321,066

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は、以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結
	機能商品	ケミカルズ	産業ガス	ヘルスケア	計				
売上収益									
外部収益	847,709	815,682	628,255	307,861	2,599,507	131,260	2,730,767	—	2,730,767
セグメント間 収益	47,569	37,048	5,181	444	90,242	133,083	223,325	△223,325	—
合計	895,278	852,730	633,436	308,305	2,689,749	264,343	2,954,092	△223,325	2,730,767
セグメント損益 (コア営業利益) (注3)	53,612	38,393	66,503	21,936	180,444	8,640	189,084	△8,047	181,037

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものはエンジニアリング、運送及び倉庫業であります。
- 2 セグメント損益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△8,498百万円及びセグメント間消去取引451百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない基礎的試験研究費等であります。
- 3 セグメント損益は、営業利益(又は損失)から非経常的な要因により発生した損益(事業撤退や縮小から生じる損失等)を除いて算出したコア営業利益で表示しております。
- 4 当社は、2020年3月期において(株)LSIメディエンス及びその子会社等の事業を非継続事業に分類しており、セグメント情報は非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結
	機能商品	ケミカルズ	産業ガス	ヘルスケア	計				
売上収益									
外部収益	745,458	607,472	587,477	299,663	2,240,070	115,371	2,355,441	—	2,355,441
セグメント間 収益	41,852	35,128	4,779	364	82,123	134,643	216,766	△216,766	—
合計	787,310	642,600	592,256	300,027	2,322,193	250,014	2,572,207	△216,766	2,355,441
セグメント損益 (コア営業利益) (注3)	39,909	△5,863	58,861	22,380	115,287	8,965	124,252	△10,640	113,612

- (注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その主なものはエンジニアリング、運送及び倉庫業であります。
- 2 セグメント損益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△10,199百万円及びセグメント間消去取引△441百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない基礎的試験研究費等であります。
- 3 セグメント損益は、営業利益(又は損失)から非経常的な要因により発生した損益(事業撤退や縮小から生じる損失等)を除いて算出したコア営業利益で表示しております。
- 4 第1四半期連結会計期間より、一部の事業及び連結子会社の所管セグメントを見直しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の区分方法により作成しております。
- 5 第2四半期連結会計期間より、クオリアプス(株)及びその子会社の所管セグメントをヘルスケアセグメントから機能商品セグメントに変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の区分方法により作成しております。

セグメント損益から、税引前四半期利益(△損失)への調整は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
セグメント損益	181,037	113,612
固定資産売却益	4,398	8,621
持分法による投資利益	—	2,749
段階取得に係る差益	—	1,295
関係会社株式売却益	523	909
減損損失戻入益	1,720	—
減損損失 (注)	△19,434	△107,194
特別退職金	△1,079	△5,422
固定資産除売却損	△3,350	△4,376
工場閉鎖関連損失引当金繰入額	—	△3,318
関係会社株式売却損	△1,472	△547
その他	△1,775	△5,601
営業利益	160,568	728
金融収益	6,785	4,823
金融費用	△22,629	△18,320
税引前四半期利益(△損失)	144,724	△12,769

(注) 当第3四半期連結累計期間において認識した減損損失の主な内容は、以下のとおりです。

①田辺三菱製薬株によるニューロダーム社(イスラエル)の買収により取得した技術に係る無形資産

事業環境の変化に伴い収益性が低下する見込みとなり、市場調査を踏まえ計画を見直した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回ったため、技術に係る無形資産(仕掛研究開発費)について帳簿価額を回収可能価額43,272百万円まで減額し、減損損失△84,534百万円を計上いたしました。

②米国テキサス州におけるMMAモノマー及びMAA工場の設備

MMA事業の競争力強化と供給体制の最適化を図るため、当社の連結子会社である三菱ケミカル株の子会社であるルーサイト・インターナショナル社(アメリカ)のボーモント(テキサス州)におけるMMAモノマー及びMAA生産を終了し、工場を閉鎖する決定を行いました。その結果、投資の回収が見込めなくなったため、当該工場設備について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失△19,382百万円を計上いたしました。

なお、減損損失に加え、当該工場閉鎖に関連する損失として、特別退職金△901百万円、工場閉鎖関連損失引当金繰入額△3,318百万円を計上しております。